

みんなの

せんだいぼうさいわくぐみ
仙台防災枠組

わたし
私たちが取り組む防災

くぼうさい
—子どものための仙台防災枠組—

FOR CHILDREN





グローバルネットワーク

「気候変動の時代を生きる子どもたち」

(英語名 CHILDREN IN A CHANGING CLIMATE COALITION) について

「気候変動の時代を生きる子どもたち」は、子どもについての調査研究、開発、人道支援を行なう団体の国際的なネットワークです。私たちはお互いに協力し、世界をより良くする力を持つ子どもたちと共に活動しています。子どもの権利が推進されるように活動することが、私たちの使命です。参加団体は、チャイルド・ファンド・アライアンス、プラン・インターナショナル、セーブ・ザ・チルドレン、ユニセフ、ワールド・ビジョン・インターナショナルです。

はじめに

この本は、子どもであるみなさんからコメントや提案を得てより良いものにすることができました。コメントを寄せてくださったエチオピア、ガーナ、フィリピン、モザンビークの子どものみなさん、ありがとう。チャイルド・ファンドのエチオピア事務所、セーブ・ザ・チルドレンのモザンビーク事務所、プランのフィリピン事務所、ワールド・ビジョンのガーナ事務所が、子どもたちの話し合いの場を提供しました。

また、チャイルド・ファンドのソレーン・エドワルドとサラ・スティーブンソン、プランのヤコボ・オチャランとアリソン・ライト、セーブ・ザ・チルドレンのニック・ホール、キルシ・ベルトラとウェイン・ウリッチ、ユニセフのジェーン・チュンとアントニー・スポルトン、ワールド・ビジョンのセデリック・フブレック、マギー・イブラヒムとティファニー・タオ・ジョイナーからもコメントを得て、この本ができました。

本冊子には、「指導の手引き」(別刷り)が用意されています。合わせてご利用ください。

編集責任者：フェリペ・カラ(チャイルド・ファンド)

著者：ヘレン・キアニー

デザイン・イラスト：クラウディア・ブランコ・アンド・マゲンタ・クリエイティブ・ネットワークス

世の中のことを

しんけん

真剣に考えている

すべての

子どもたちへ

きみたちこそ、

**SUPER
HEROES**

スーパーヒーロー!



EACH YEAR

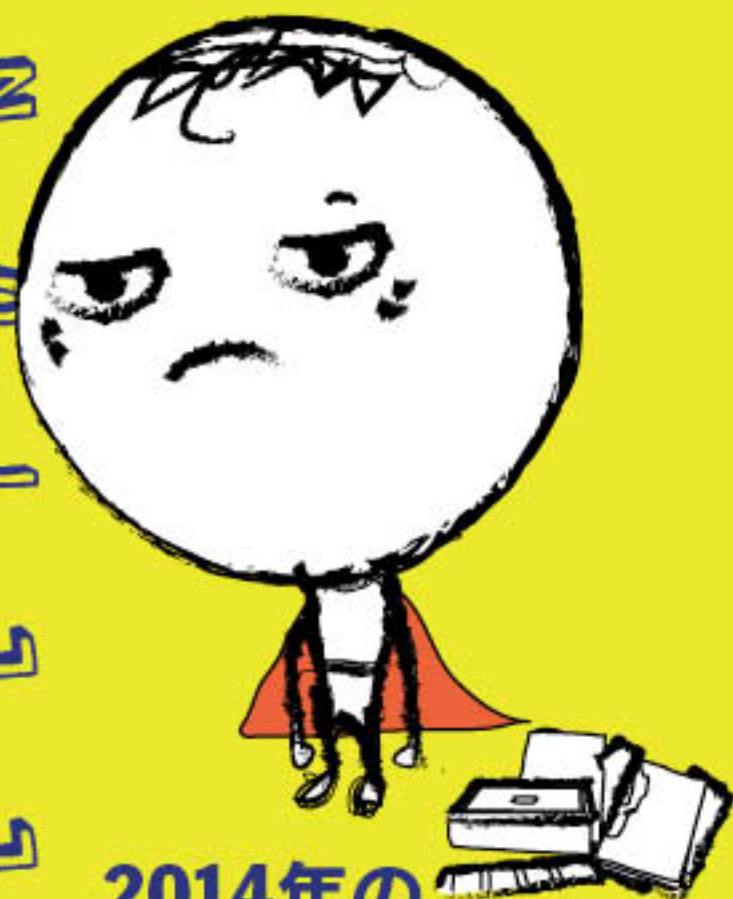


毎年、世界中で1億7500万人
もの子どもたちが災害の影
響を受けています*。

*出典: Webster, Mackinnon et al. (2008), *The humanitarian costs of climate change* (Medford, MA: Feinstein International Center).



N
O
I
T
T
I
M



2014年の
1年間だけでも、

900万人

の子どもが災害などの
ために学校に通
えなくなりました*。

*出典: Save the Children (2014), *No child left behind: Barriers to education in the Asia-Pacific region.*

子どもであるみなさんは、身の回りにどのようなリスクや危険があるかということや、どのような災害の可能性があるか、まわりのおとなに伝えて、災害の前にも後にも、家族や学校、地域をより安全な場所にする力を持っています。

みなさんが、災害に関係した危険について理解し、自らの力で考え、おとなたちに意見を聞いてもらう力を身につけることによって、災害から自分を守る大切な役割を担うことができます。子どもであるみなさんが意見を伝えることは、災害に強く、より安全な地域を作るためにとても大切なのです。

この本は、「災害リスクの軽減（防災）」について書いたものです。「災害のリスクを軽減すること」や「防災」とは、災害が起きたときに備えて、被害をできる限り少なくするためにみんなで協力することなのです。ここでいう「みんな」とは、国の政府や村や町などの地方自治体、そして私たちが暮らす地域の人、そして家族全員のことです。「みんな」で行動するためには、みんなの意見を聞いて、みんなが参加することが大切です。子どもや若者も、おとなと同じ「みんな」の一員として、意見を聞いてもらい、防災の取り組みに参加することが大切なのです。

いま、世界では、多くの人が防災は大切であると
気づき始めています。

2015年に、日本の仙台市に世界からたくさんの国の
政府が集まり、災害から世界を守るための15年
の計画に取り組むことを決めました。この計画は

せん だい ぼう さい わ く ぐ み
仙台防災枠組

といます。この本は、子どもや若者であるみな
さんが「仙台防災枠組」について理解して、災
害から世界を守るためにみなさんに期待されて
いる大切な役割を知ってもらうためのものです。

せんだいぼうさいわくぐみ

仙台防災枠組

について考える前に、まずは、

次のことばについて考えてみましょう。

災害、リスク、

そして

危険(ハザード)



社会のなかで、^{もっと}最も^{よわ}弱い
^{たち}立場にあるのはどんな人
たちなんだろう？

「レジリエンス（^{きょう}強^{せい}じん性）」ってなん
だろう？

レジリエンスとは、「^{しん}強い^{じん}芯をもち、^{じゅうなん}柔軟
^{たいおうのうりょく}な対応能力を持つことにより、^{さいがい}災害が起
きてもしなやかな^{かいふくりょく}回復力を持つこと」を
^い意味^みします。

この本に書いてあることは、子どもや、「子
どもの^{けんり}権利」にとって、とても大切なこ
となのです。



さいがい 「災害」について

りかい 理解する

周りを見てみてください。自然はじっとしていることはなく、たえず動き、変化していますね。みなさんが住んでいる場所によって、雨が降っていたり晴れていたり、風が吹いたり雪が降るところもあるでしょう。木が倒れることもあります。潮は満ちたり引いたりします。地面が揺れることもありますね。





さいがい ひ 災害を引き起こす きけん 「危険(ハザード)」 とは？

危険(ハザード)とは、用心をしていなければ、私たちや、私たちの財産、住む環境を壊してしまうかもしれないできごとです。危険は、自然に起こるものもあれば、人が原因となって作り出されるものもあります。

自然に発生する危険(自然ハザード)には、地震、ハリケーン(台風)、火山の噴火、洪水、干ばつ、地すべりなどがあります。

そのほかに、技術的なことが原因となって起こる危険や、人間がしたことが原因となって起きる危険もあります。環境汚染、交通渋滞、工場事故などです。



考えてみよう 1

き けん
危険
(ハザード)の
種類

マッチング・ゲーム!!



津波

海底の噴火や地震で起こる高い波のことです。津波が海岸まで届くと、建物が壊れたり家が水の中に沈んだり、地域への影響が大きくなることもあります。

感染症の流行

感染症が多くの人へ急速にうつること。

ハリケーン（台風）

場所によって、台風やサイクロンとも呼ばれます。強い熱帯低気圧のことです。ある特定の気象条件がそろると、発生します。



地震

地球の表面を覆うプレートや活断層が動くことによって、地面が揺れ動くこと。

干ばつ

長い間雨が降らないために、きびしい水不足となること。川の上流に造ったダムが原因で、下流の村が干ばつになってしまうなど、人間のしたことが原因で発生することもあります。

異常発生

植物や動物、昆虫が急激に増えて、人間や穀物、家畜に害を与えること。



マルの中の絵と「ことば」を組み合わせよう！
そして、自然ハザードによって起こるものか、人間がすることが原因になるものなのか考えてみましょう。



洪水

川の水が外にあふれ出すこと。

なだれ

大量の雪が突然斜面を崩れ落ちること。

技術的災害

テクノロジーや産業に関することが原因で引き起こされる危険。例えば、工場の爆発、化学物質の漏れや、核放射線などによる危険。



地すべり・土砂崩れ

大量の土や泥が突然斜面を崩れ落ちること。

噴火

マグマが地表に上がってきて、溶岩や灰が噴き出すこと。

山火事

森林で発生した火事を消すことができず燃え広がること。



これまで見てきたとおり、

災害が自然に起こるものなのか、人間のしたことが原因で起こるものなのか、はっきり区別できるものではありません。

「洪水は自然に起こる」

と思いがちですが、川の上流に捨てたゴミで川の流がせきとめられたり、森の木々が切り倒されたりするなど、私たち人間がすることが原因となって洪水が起きることもあるのです。



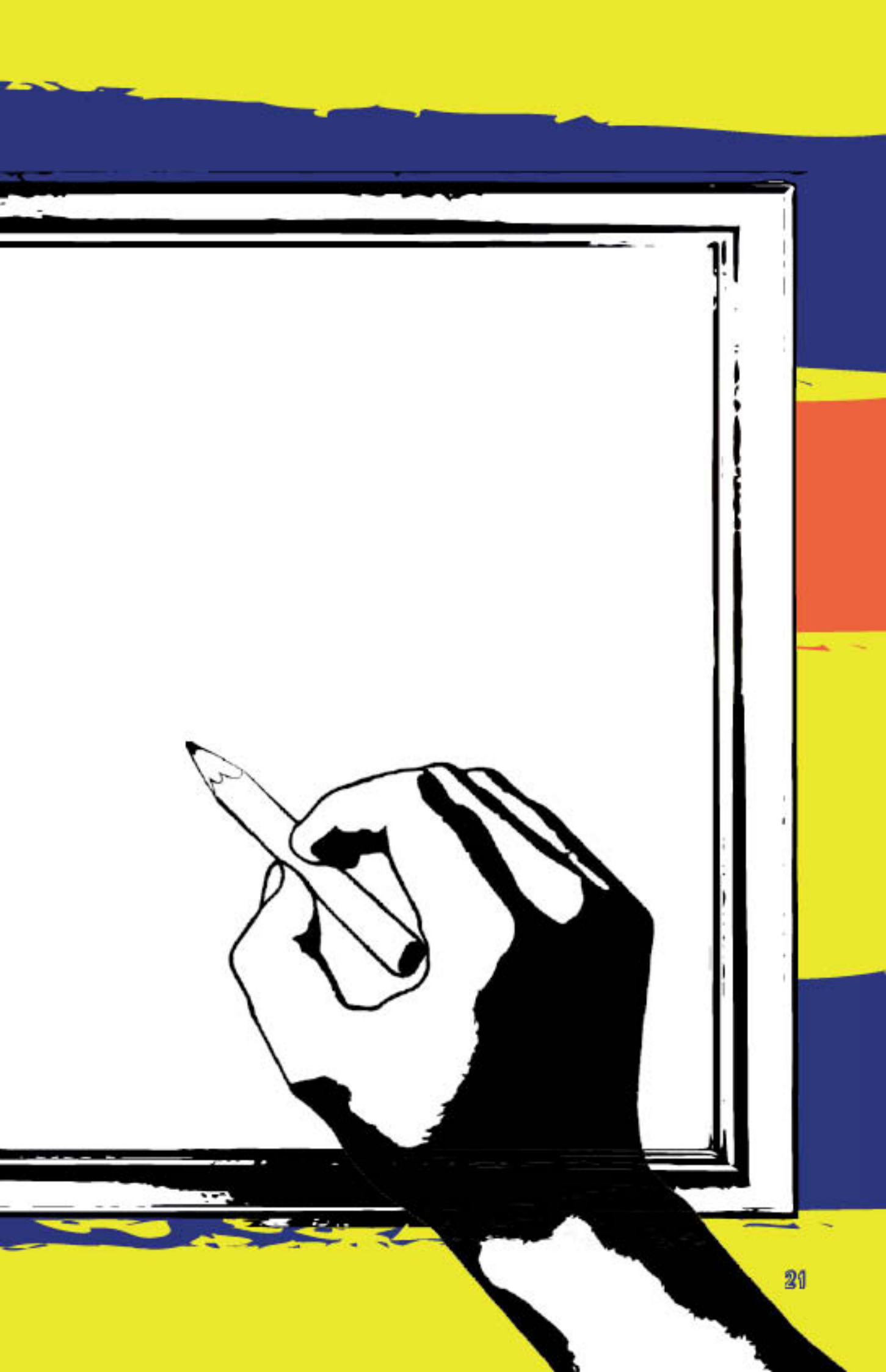
やまかじ しぜん
山火事は自然に起きる
こともありますが、

人間が森にタバコを捨てたことが
原因で山火事になる
こともあります。



かんが
考えてみよう 2

わたし
私たちのまわりでは、
どんな危険(ハザード)が
起こりますか？



パズル

危険(ハザード)を あらわ 表すことばを さがそう!

次のことばを見つけてみよう!
意味がわからなくなったら
16 ページを見てもようね。

たいふう

つみなみ

かんぱつ

じしん

やまかじ

かんせんしょう

みづすい

なだれ

どせきりゅう

ふんか

じすべり

いじょうはっせい

や ま か じ い わ び も あ へ せ ど
お く か し ひ ど ふ ん か り ろ せ
ふ な ば ん け を る い ひ に め き
ろ や だ に せ あ ふ の ち せ え り
じ ん ぬ れ え ん ば か な ほ に ゆ
す っ お わ て む す ば に し は び と あ う
べ あ び ふ し ぎ う ぶ う あ つ れ ま
り む わ き さ ほ た ど れ み の た ぶ
い わ ね こ う ず い ち ね と か ん ば つ
が ね あ ろ ん ゆ ふ ち ね と し く っ り
じ あ ろ ん ゆ ふ ち ね と し く っ り
ち ひ い じ よ う は っ せ い と う

答えはP66

「災害」って なんだろう？

身の回りにある危険（ハザード）の原因は、一つひとつが必ず災害につながるとは限りません。しかし、危険の原因がいくつか同時に組み合わせることによって災害は発生します。土砂崩れの例を見てみましょう：

1

人々が「危険な場所」の近くに家を建てたとします。

「危険な場所」とは、例えば、泥でぬかるみ、不安定な斜面がある火山のふもとや、海岸などです。

2

そこに、「危険（ハザード）」が発生するとどうなるでしょう？

例えば、大雨が降って、そこに地震が起きて、土砂崩れが起きるのです。

3

このようにして、「危険」が「災害」となり、

私たちの生活や財産に大きな被害をもたらす

可能性があります。



かんが
考えてみよう 3

この絵のなかで、危険（ハザード）が災害になる可能性を減らすために、私たちに何ができるでしょう？

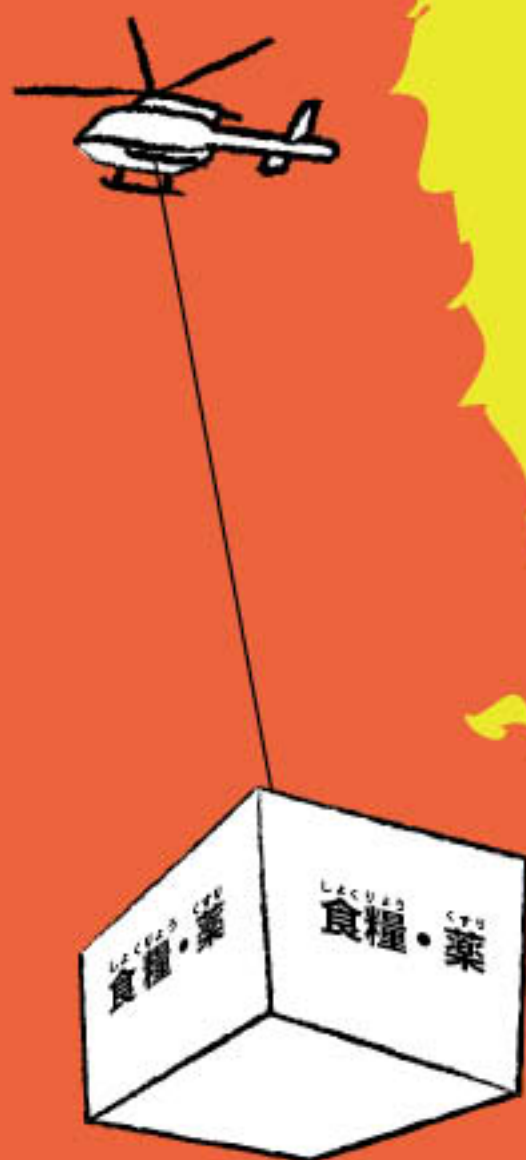
つまり、災害とは、
多くの人がかがをしたり、
命を落としたり、
持ち物が壊されたり
失われたりしてしまう、
悪いできごとなのです。

災害が起きた場所に住んでいる人たちだけでは、災害に立ち向かうことがたいへんな時も多くあります。政府と地方自治体には、その人たちを助ける役割があります。また、近所の人やほかの地域、外国からの助けが必要となる時もあります。そのような、政府やほかの地域から助けが必要な状況を、コミュニティ（地域）の「対応能力」を超えている、と表現します。

「対応能力」とは、災害から自分自身と財産を守るためにそのコミュニティに暮らす人たちが持っている強さ、資源や知恵のことです。

かんが
考えてみよう 4

わたし
私たちに身近なところで、どんな危険があるか考えてみよう。
危険が災害になる可能性を減らすために、どんなことをしたらよいでしょう？



「ぜい弱性」

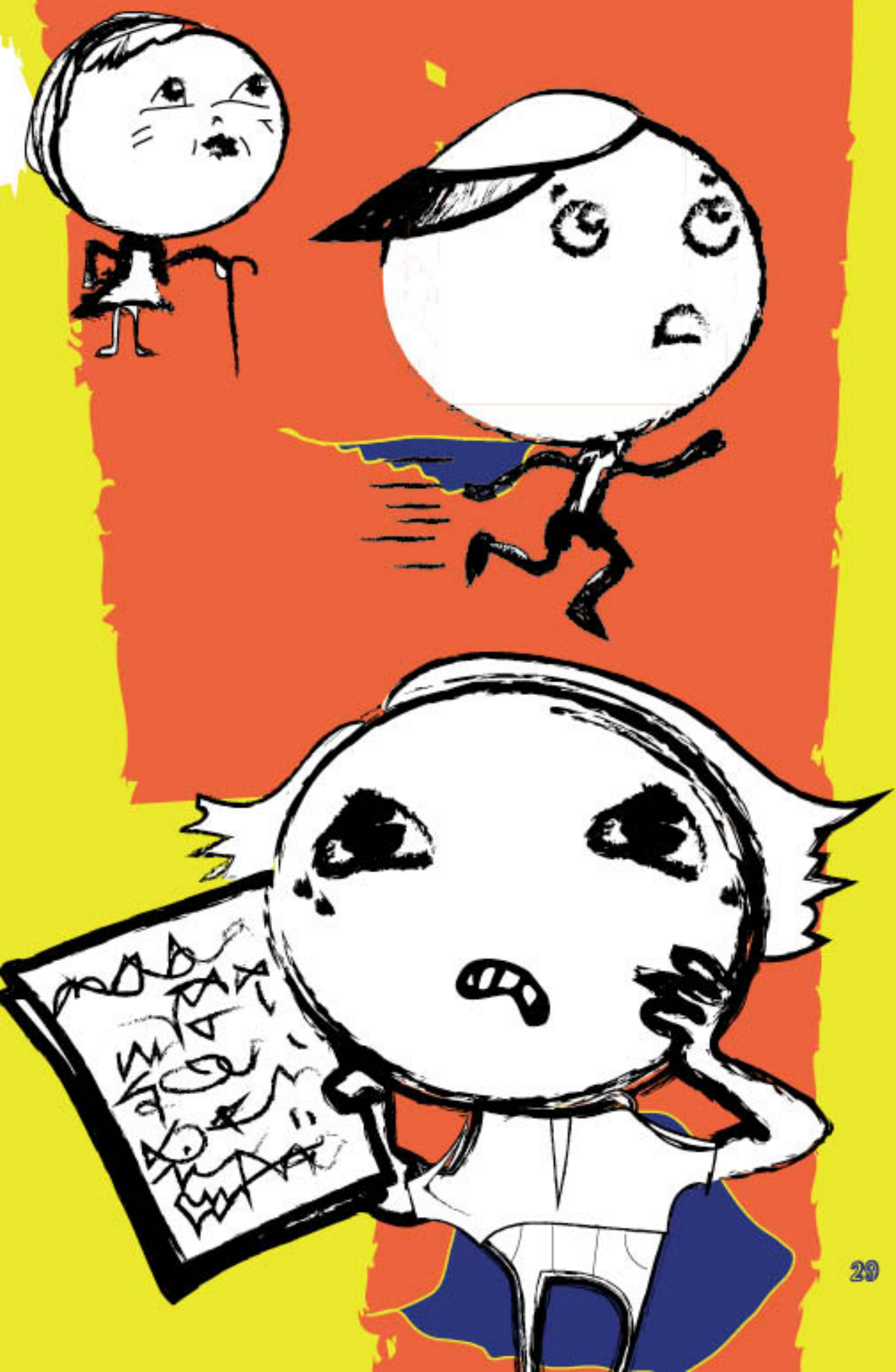
(災害に対する弱さ)って どういう意味？

人々やコミュニティ、町や国が、ほかと比べて、より被害を受けやすいこと、つまり、災害に対して弱い状態にあることを「ぜい弱」であると言います。

私たちは、年をとったり、病気になったり、妊娠していたり、また、障がいがあることによって、災害に対して弱い立場や状態になることがあります。例えば、山火事が起きた時、きっと、子どものほうがお年寄りよりも早く走って逃げることができるでしょう。また、危険を伝える注意書きが読めなかったり、ラジオで伝えていることばがわからなかったりすることも、災害に対して弱い立場になることにつながります。川沿いの不安定な建物に住むことも、災害に対して弱い立場になる原因となるかもしれませんし、はじめて暮らすところで、近所のことをよく知らなかったり、その地域のことばを話せなかったりすることも、災害に対して弱い状態になる原因となることもあります。

災害で最も弱い立場に置かれやすいのは、経済的に貧しい人々です。仕事がある場所の近くに住まなければならない、住む場所が安全かどうかで選べなかったり、家を建てるために丈夫な材料を買うことができなかったりするからです。また、危険が災害につながるのを防ぐ方法や、災害が起こった時にどうしたら良いかという方法を教わっていないことがよくあるからです。警察、消防署、政府は、災害に弱い立場や状態に置かれた人々が危険にさらされないようにするために、とても大切な役割を持っています。

危険区域で人や財産が災害のリスク(被害にあう可能性)にさらされている状況を表す言葉に、「エクスポージャー(ばく露)」があります。気候変動や、一つの地域に暮らす人が増えることも、危険にさらされる人や物を増やすことにつながることがあります。



つまり…

ぜい弱性（災害に対する弱さ）には防げないものもありますが、防ぐことができるものもあるのです。大切なのは、一人ひとりが、まわりにいる災害に弱い立場の人を助けられるように考えることです。身の回りにどんな危険があるかを話し合っ**て協力するコミュニティは、**ぜい弱性を少なくすることができるのです。



かんが 考えてみよう 5

自分が暮らすコミュニティについて考えてみよう。災害に弱い立場の人はいませんか？ もし、洪水が押し寄せているという警報を携帯で受信したら、あなただったらどうしますか？ 最も弱い立場に置かれた人々を守るために、あなたはどんなことをしますか？



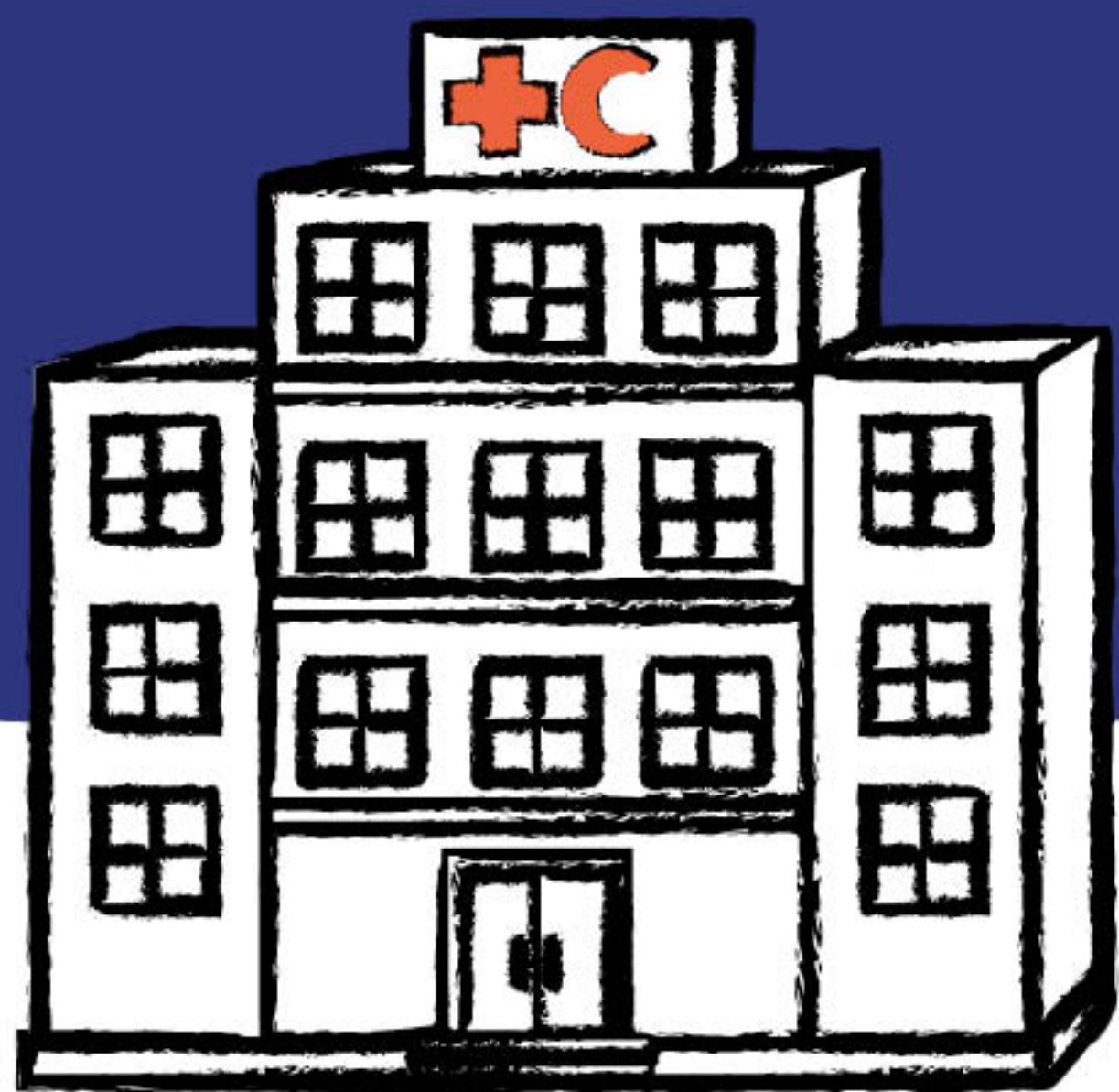
リスクって何？

リスクとは、危険が災害に変わる可能性のことです。

危険(ハザード)をいつも防ぐことはできません。しかし、危険が災害に変わる可能性を減らすことはできます。

これを「災害リスクの軽減」と言います。例えば、家や学校を建てる時に、材料や建て方を工夫すると、台風で壊れる可能性が低くなったり、また、森林の伐採をやめることで地すべりの可能性を減らすことができます。

「災害リスクの軽減」は、そのほかにも、ずっと先の将来まで、私たちの生活に役立ちます。このことを、「持続可能な開発」に役立つと言います。例えば、村の近くを流れる川にゴミを捨てないことは、洪水が起こる可能性を少なくするだけでなく、村の人が、健康で豊かに暮らすことにつながります。ゴミを捨てないきれいな川の水を飲み水や料理に使う水、洗い物をする水に使うことで、みんなの健康が保たれ、川の魚も増えて、村の人たちが食べたり、取れた魚を市場で売ったりすることもできるようになるからです。



ゲーム

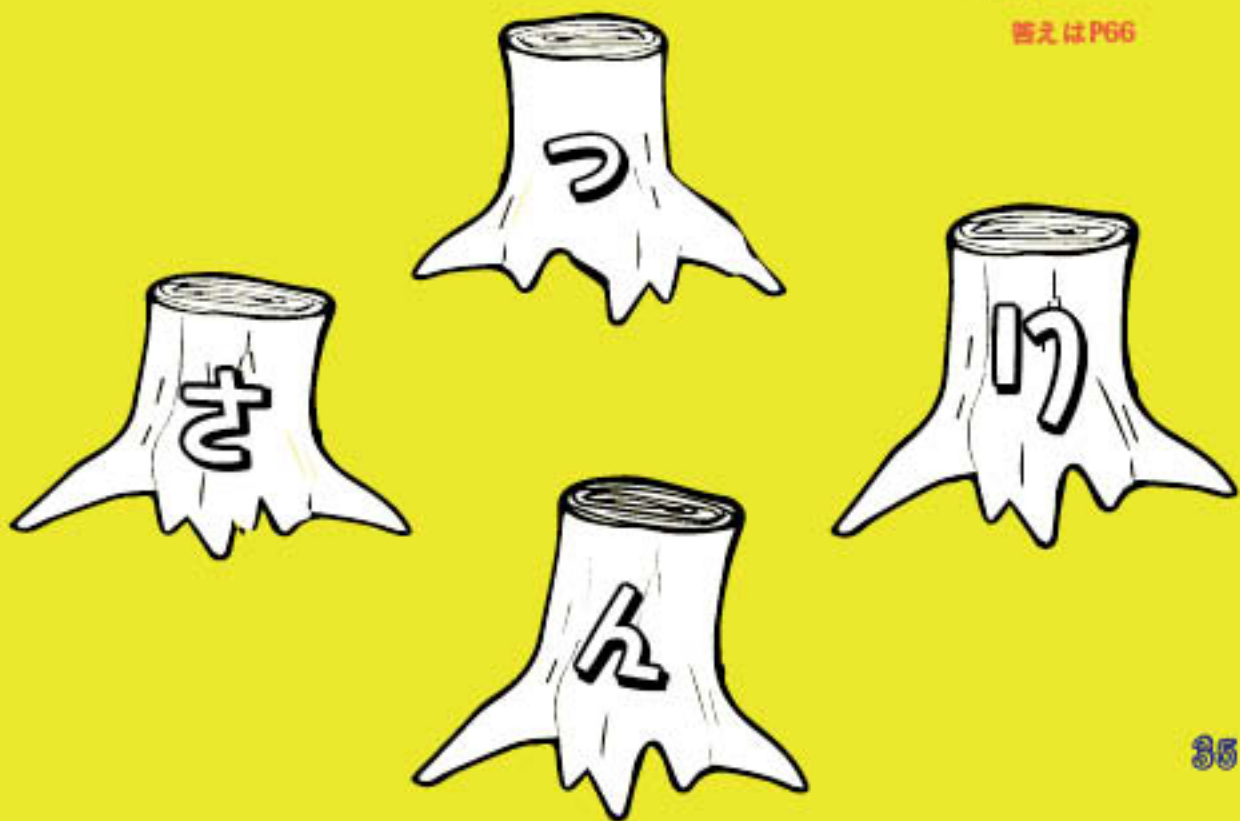
正しい順番に ならべてみよう

ヒント:

どんなことをすると、地すべりや
洪水のせい弱性が
大きくなってしまおうかな？



答えはPGG



き けん
危険(ハザード)

さいがい
災害

じゃくせい
ぜい弱性そして
リスク

4つのことは、わかったかな？

では、いよいよ、

さいがい
災害リスクの

けいげん
軽減のための

せんたいぼうさいわくぐみ
仙台防災枠組

がどういうものなのか、
見てみましょう！

何のためにあるの？

仙台防災枠組は、自然のハザードと人が原因で起きるハザードのあらゆる危険（ハザード）を考えて作られています。

世界中の国の政府や、地域、家族など、あらゆるところのすべての人が関係します。政府やリーダーの人たちは、みんなの命を守る大切な責任を持っています。そして、私たち一人ひとりも、同じ責任を持っているのです。人々がお互いのことをよく見守り、お互いの話に耳を傾ける地域は、災害のリスクが小さく、そして、災害に強いコミュニティとなり、災害が起きても、強い力を発揮します。



どんな わくぐみ 枠組なの？

仙台防災枠組の前は、「兵庫行動枠組」という災害の
リスクを減らすための計画がありました。これは、世
界各国の政府、国際機関と防災の専門家たちによって、
2004年にスマトラ島沖地震という大きな地震と津波が
起きた次の年の2005年に作られました。仙台防災枠
組は、この兵庫行動枠組に書かれた防災の考え方に、
新たに大切な考え方を追加したものです。

仙台防災枠組せんだいぼうさいわくぐみに書かれた大切たいせつな考え方

その1

災害さいがいが起きてからどうするか、ということよりも、災害さいがいの「リスク」をコントロールすることが大切です。これまでに学んだように、危険きけん（ハザード）がそのまま災害さいがいになるというわけではありません。リスクとは、危険きけんが災害さいがいに変わる可能性かのうせいのことです。ですから、できるだけリスクを減らすことは、危険きけんが災害さいがいに変わることを防ぐ良い方法ほうほうです。

その2

仙台防災枠組せんだいぼうさいわくぐみには、世界が目指す7つの明確な目標もくひょうと、その目標もくひょうに近づいているかどうかをチェックする方法ほうほうが書かれています。

その3


仙台防災枠組せんだいぼうさいわくぐみにはいろいろな種類しゅるいのハザードについて書かれています。自然現象ぜんぜんしょうによる危険きけんと、人が原因げんいんで生まれる危険きけんの両方りやうほうのいろいろな危険きけんについて考えておくことが大切です。また、災害さいがいに強い地域ちいきを作るために、保健けんと教育きょういくはとても大切です。地域ちいきの人々が健康けんこうで、どのような危険きけんがあるか知っていて、健康けんこうでいる方法ほうほうや情報じょうほうを得る方法ほうほうを知っているようにすることで、その地域ちいきは災害さいがいに対して強つよくなります。

その4

仙台防災枠組せんだいぼうさいわくぐみは、防災計画ぼうさいけいかくがきちんと実施じっしされるためには、すべての人たちがそれぞれの役割やくわりをもっており、それをわかっていることが大切たいせつと考えます。政府せいふやリーダーだけがわかっているというものではありません。災害さいがいリスクの軽減けいげんは、みんなで取り組むべき課題かだいなのです。

やくわり
あなたの役割は
何でしょう？





18才未満の世界の人口は、22億人です。子どもは、こんなに大勢いるのですから、おとなも、みなさんのような子どもの考えを聞くべきなのです！これまでの災害の時の経験からも、子どもならではの防災の知恵やアイデアが大切であることがわかってきています。どんな

子どもでも、どんなところに住んでいても、みなさんには、自分たちの命に関わることを決める時に意見を聞いてもらったり、話し合いに参加したりする権利があります。子どもが、一人でもグループでも、災害リスク軽減の取り組みの中心にいるようになると、その活動は、子どもによる子どものための活動となるのです。子どもが主役の災害リスク軽減の取り組みを通じて、生きる権利、学ぶ権利、健康に成長する権利を含む、多くの大切な子どもの権利が守られるのです。

政府や色々な組織、みなさんの地域に住むおとなたちは、子どもをよりよく守ることができるよう、みなさんの意見を聞くことが大切です。みなさんの熱意と知識、アイデアが、まわりの人を守ることに繋がっていくのです。

せん だい ぼう さい わく ぐみ
仙台防災枠組に

よって
どうなるの？

EXPECT TO

DOO?

みなさんが仙台防災枠組に書かれていることを実行すると、災害が少なくなるのです。危険が災害を引き起こしても、被害は少なくなり、より早く回復するようになるでしょう。何よりも大切なことは、災害によって命を落とす人や仕事を失う人が減り、田畑や住まい、みんなの健康や環境が受ける被害が少なくなることです。災害は長期にわたって人々に深刻で経済的な被害をおよぼしますが、そうした被害を少なくすることもできます。

仙台防災枠組の 目指す ゴールは？

仙台防災枠組の目指すゴールは、この先の災害リスクを防ぎ、今すでにあるリスクを小さくすることです（前に書いてあったこと、覚えている？ リスクとは、危険が災害に変わる可能性のことです）。仙台防災枠組に書かれていることを実行することで、毎日の生活で何を変えていけば良いのかを考え、危険を減らし、災害に強いコミュニティをつくり、災害に対してよりよく備えることができるのです。

これらすべては、災害に対する「レジリエンス」を高めること、つまり強い芯をもち、柔軟な対応能力を持つことにより、災害が起きてもしなやかな回復力を持つことです。まるで、強い風にあおられても、枝をしならせて受け流す柳のようですね。



RESILIENCE

レジリエンスが
上がれば

RISK

リスクが
下がる

7^{めいかく}つの明確な ターゲット (^{もくひょう}目標)

ターゲット(^{もくひょう}目標)とは、みんなで力を合わせて達成(^{たっせい})するものです。仙台防災枠組がうまく進んでいるかどうか確認(^{かくにん})するのに役立ちます。





目標 1

さいがいによる死亡者を減らすこと。

2020年から2030年の10万人あたりの死亡者数が2005年から2015年に比べて下がっているかを調べます。





もくひょう
目標

2

世界中で、被災者の数を大幅に減らすこと。

2020年から2030年の10万人あたりの被災者数が、2005年から2015年の間に比べて減っているかを調べます。

災害による経済的な損失を減らすこと。災害によりよく備えることで、実際に災害が起きた場合の応急対応や復興のために使うお金が少なくてすむようになり、また災害による経済的な損失を減らすことができます。経済的な損失とは、例えば、仕事に行けなくなることや、お店がつぶれてしまうことなどのことです。

ぼうさいちよきん
防災貯金

学校や病院、鉄道や大きな道路などの重要な公共サービスへの被害を、レジリエンスを高めることによって最小限にすること。

例えば、2030年までにすべての学校を頑丈な材料でしっかりとした地面の上に建設するなどして、レジリエンスを高めるようにすることなどです。



ちくひょう
目標

5

2030年までに、災害リス
ク^{けいげん}軽減のための戦略^{せんりやく}を
もつ^{くに}国や都道府県、市
町村^{ちょうそん}の数を増やすこと。



6

世界の国々が協力して、危険（ハザード）が災害リスクにならないように予防すること。たとえば、日本の人たちが、地震に強い建物を建てる方法についての良いアイデアを、大きな地震があったネパールの人たちに伝えてネパールでも同じ方法で建てられるようにすることです。また、たとえば、セントルシア（中南米にある島国）の人は、強い雨による土砂崩れが起きないように、畑に溝を掘りますが、その方法を中南米にあるグアテマラという国の人に教えてあげると良いということです。

7

早期警戒システムを利用したり、理解したりすることができる人の人数を増やすこと。つまり、お互いに協力しあい、災害リスクの情報を分かち合おうということです。たとえば、ある島の人たちが台風が来ることを知ったら、ラジオやテレビ、SNSなどを使って、その情報を知らせるようにするのです。





4つの 優先行動

ゆうせんこうどう

1

さいがい 災害リスクを りかい 理解すること

仙台防災枠組では、みなさんのような人たちが災害と危険、リスク、そして、災害に対するぜい弱性について理解できるようにすることを旨とします。みなさんが理解していれば、何が危険となるかを見きわめ、危険が災害につながることを防ぎ、自分のこと、まわりの人たちや、みなさんの持っているものを安全に守ることができるようになるからです。



2 災害リスク 管理の体制を 強化すること

仙台防災枠組は、災害が起きた時、政府やリーダー、
国際機関がよりよく対応できるようになることを目指
します。そうなるためには、災害を予防する計画と、
災害が起きたらすぐに対応できるような、わかりや
すい計画と手順を用意しなければなりません。



3

災害リスクの軽減 のために投資し、 レジリエンスを 高めること

仙台防災枠組は、政府による対策にお金をかけるだけでなく、個人や会社などによる対策においても、それぞれが十分なお金をかけて災害リスクを軽減できるようになることを目指します。防災にお金をかけることは、長い目で見れば、持続可能な開発につながるのです。たとえば、丈夫な材料で新しい学校を建てるのは、お金がかかるかもしれませんが、いざ地震が起きた時、強い学校であれば、学校は無事です。子どもは学校に通い続けることができ、学校を建て直すのにお金をかけずにすむので、長い目で見れば、防災にお金をかけることは国にとって良いことなのです。



4

さいがい 災害への備えを
そな

きょうか 強化して、

こうかてき おうきゅうたいおう
効果的な応急対応と

よふっこう
「より良い復興」

じっげん
を実現すること



せんだいぼうさいわくぐみ おうきゅうたいおう こうかてき おこ
仙台防災枠組は、応急対応が効果的に、きちんと行な
われるように、すべての人が危険に襲われた時の備えが
できているようにします。そして、家庭もコミュニティも国
も、災害で壊れてしまったものを直す時は、災害が起こ
る前よりも、より災害に強い状態になるよう「より良い復
興」を目指します。



やってみよう 6

1. 身の回りで危険な場所を見つけて、それらを示した地図を描いてみよう。
2. まわりの人に、災害リスクのことや、安全でいるためにできることを教えてあげよう。
3. 自然を守ろう。



さあ、みんな
やってみよう!

OVER
TO YOU!

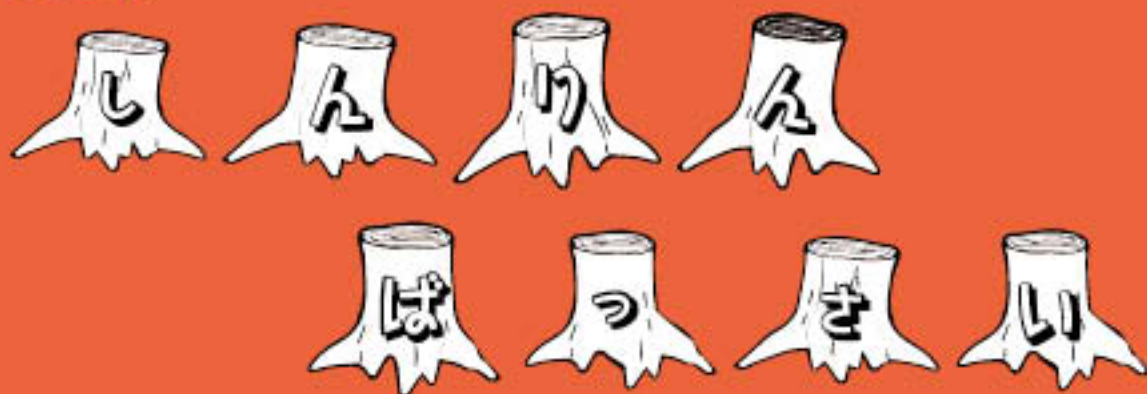


クイズの答え

P 23の答え

や	ま	か	じ	い	わ	び	も	あ	へ	せ	ど
お	く	か	し	ひ	ど	ふ	ん	か	り	ろ	せ
ふ	な	ば	ん	け	を	る	い	ひ	に	め	き
ろ	や	だ	に	せ	あ	ふ	の	ち	せ	え	り
じ	ん	ぬ	れ	え	ん	ぼ	か	な	ほ	に	ゆ
す	っ	お	わ	む	に	し	は	び	と	あ	う
べ	あ	び	て	す	ぼ	に	よ	れ	あ	つ	れ
り	む	ふ	ゆ	し	ぎ	う	ぷ	う	な	も	ま
い	わ	き	さ	ほ	た	ど	れ	み	の	た	ぷ
が	ね	こ	う	ず	い	ち	ね	か	ん	ぼ	つ
じ	あ	ろ	ん	ゆ	ふ	ね	と	し	く	っ	り
ち	ひ	い	じ	ょ	う	は	っ	せ	い	と	う

P 35の答え



Movimiento Mundial por la Infancia de Latinoamérica y el Caribe (2015),
*The world we want: A young person's guide to the Global Goals
for Sustainable Development.*

AVAILABLE AT <http://sustainabledevelopment.un.org>.

UNICEF (n.d.),
The little book of children's rights and responsibilities.

AVAILABLE AT <http://www.unicef.org>.

UNICEF et al. (n.d.),
The Convention on the Rights of the Child in child-friendly language.

AVAILABLE AT <http://www.unicef.org>.

UNICEF (n.d.),
*United Nations Secretary-General's study on violence against children
adapted for children and young people.*

AVAILABLE AT <http://www.unicef.org>.

ぼうさい げんさい 日本 CSO ネットワーク (JCC-DRR) 編、『市民のため
の仙台防災枠組 2015-2030』、2016。

NOW



YOU

こんど
今度は、あなたの番!

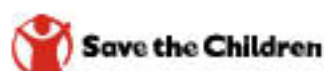
さあ、この本で学んだ「知識」という
スーパー・パワーを使って、

友だち、家族やまわりの人たちと、

さいがい 災害リスクの けいげん ぼうさい 軽減(防災)を

すす
進めていきましょう!





みんなの仙台防災枠組

私たちが取り組む防災 — 子どものための仙台防災枠組 —

Sendai Framework for Disaster Risk Reduction: For Children

©2015 ChildFund Alliance on behalf of Children in a Changing Climate

英語版： 2015年11月発行

日本語版： 2017年2月発行

英語版監修・執筆： フェリペ・カラ (チャイルド・ファンド)
ヘレン・キアニー

日本語版制作協力： 国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) 駐日事務所
国連児童基金 (ユニセフ)
公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

発行： 特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
TEL: 03-3399-8123 FAX: 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
<https://www.childfund.or.jp>

イラスト・デザイン： クラウディア・ブランコ・アンド・マゲンタ・クリエイティブ・ネットワークス

製本・印刷： 株式会社トライ



**children in
a changing
climate**

ChildFund
Alliance

PLAN
INTERNATIONAL


Save the Children

unicef 

World Vision 

 **UNISDR**
The United Nations Office for Disaster Risk Reduction